

住友生命グループの業績ハイライト

●グループ保有契約年換算保険料

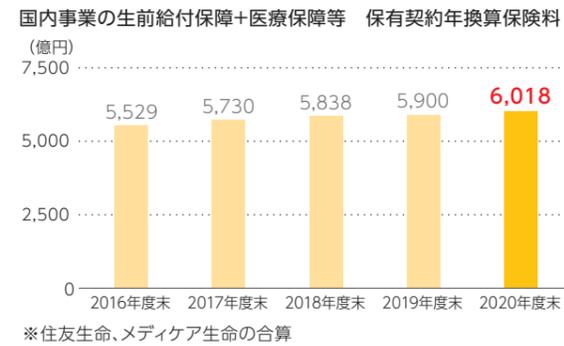
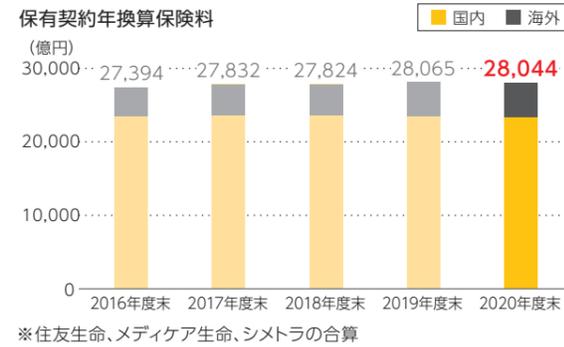
2兆8,044億円

うち国内事業の
生前給付保障+医療保障等 **6,018億円**

住友生命グループの業績について、2020年度末の保有契約年換算保険料は、2兆8,044億円となりました。また、当社が成長分野と位置付けている生前給付保障+医療保障等の保有契約年換算保険料は、国内の2社(住友生命+メディケア生命)で前年度末比2.0%増加の6,018億円と、開示以来18年連続で着実に増加しています。

これは、変化する社会環境や多様化するお客さまのニーズに対応しつつ、営業職員や金融機関等代理店・保険ショップによるマルチチャネルでの保険販売・サービスの提供に取り組んだ成果と考えています。

 年換算保険料とは、お払い込みいただく保険料を1年あたりの金額に換算した指標です。



●エンベディッド・バリュー(EV)

4兆4,892億円

住友生命グループのエンベディッド・バリュー(EV)は、新契約獲得や保有契約からの収益の確保など保険事業による成果および国内金利・国内株価上昇等により、前年度末比9,050億円の増加となりました。

新契約の拡大や諸効率の改善、リスク管理の高度化等に引き続き取り組むことにより、安定的・持続的成長を図っていきます。

 エンベディッド・バリュー(EV)とは、保険会社の企業価値を表す指標のひとつで、会社の財務の健全性や成長性などを表しています。



※1 住友生命グループのEVは、住友生命のEVにメディケア生命およびシメトラのEVのうち住友生命の出資比率に基づく持ち分を加え、住友生命が保有するメディケア生命およびシメトラの株式の簿価を控除することにより算出しています。
 ※2 計算方法等の詳細はホームページに掲載の「2020年度末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示」をご確認ください。

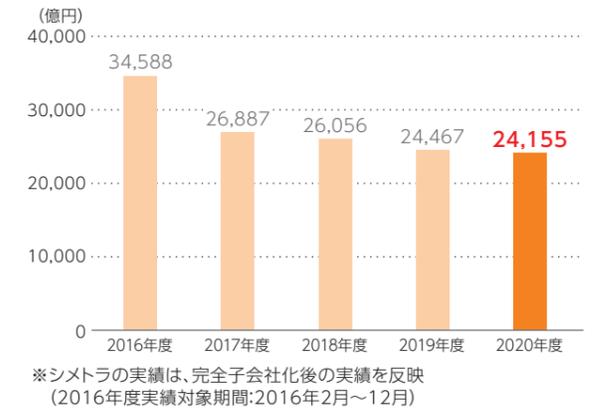


●連結保険料等収入

2兆4,155億円

連結保険料等収入は、住友生命において新型コロナウイルス感染症拡大に伴い一時払商品の販売が減少したこと等により、前年比1.3%の減少となりました。

 保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料および再保険収入等であり、収益の大半を占めています。

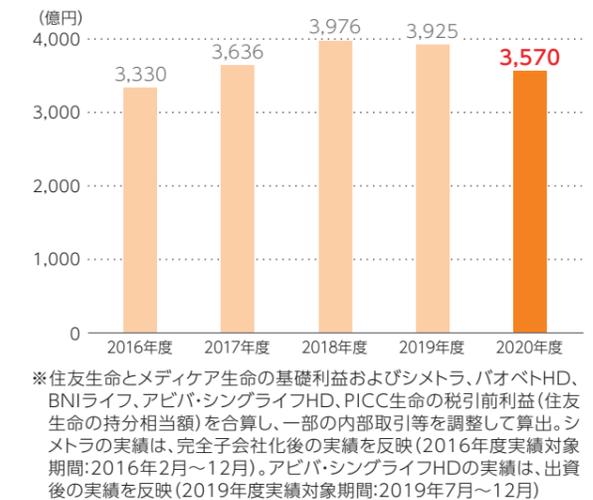


●グループ基礎利益

3,570億円

グループ基礎利益は、住友生命の長期的な成長に向けた投資および新型コロナウイルス感染症拡大に対応したコストが増加したこと等により前年比減少しましたが、グループ全体で3,570億円と安定的な水準を確保しています。

 基礎利益とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、基礎的な期間損益の状況を表す指標です。



●連結ソルベンシー・マージン比率

862.5%

連結ソルベンシー・マージン比率は862.5%と十分な支払い余力を確保しています。

 ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の大暴落といった通常予測できる範囲を超える事態が発生した場合に、保険金等をお支払いする余力がどの程度あるか(健全性)を示す指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。

